



益城の文化財

津森神宮

—寺中—

現津森宮は、鎌倉時代(宝治元年1247年)に源頼嗣(鎌倉幕府5代将軍藤原頼嗣)により見竹村(現大字下陳字北向)の古津森宮から、寺中村に遷し建立したと伝えられています。その後、津森城主光永氏に支えられ、郷社としての神格を高めていきます。しかし、安土桃山時代末期に焼き払われ、堂社もことごとく破却されます。

現在、境内には神殿・拝殿・楼門の他に末社として東末社・西末社がありますが、これらはその後再建されたものです。

明治4年に地元の杉材を利用して建立された楼門は、二層建築の二階部分が鐘楼のような形をしているのが特徴で、神仏習合の名残りか仏教建築の様式を取り入れているといわれています。老朽化と「れんが」の崩落もあり、平成19年に本格的改修工事が行われています。

江戸時代後期から明治中期にかけて奉納された騎馬武者の出陣図などの大絵馬5枚も、2年がかりで平成17年に復元され、拜殿に掲げられています。

境内には樹齢500〜800年といわれる棕・榎・銀杏の大木が10本ほどあり、平成3年には「ふるさと熊本の樹木」に指定されています。

初詣や6月1日の厄除・賀寿祈願も多く、そして600年の伝統を受け継ぎ益城町・西原村・菊陽町の広大な地域を巡幸する10月30日の「おほしさん祭り」は県下に知られる祭事となっています。

町文化財保護委員会
参考文献『益城町史 通史編』

俳句

早川宏次 選

野辺おくり季節はずれの花もあり
梅雨寒や仕舞ひし服を戻しをり
短冊に願ひ空しき天の川
白百合の凜と咲きをり庭に佇つ
節電で打輪みなおすこの夏は
ケロケロとそよぐ青田に初夏のうた
洗濯にステテコ見えし夏近し

木山 増岡 仲禰
広崎 松原まゆみ
惣領 小森英美子
木山 山口サツキ
惣領 阪口由美子
惣領 新居 露子
惣領 阪口 基明

狂句

田上富岳 選

あと一息 気を緩むつと墓穴掘る
あと一息 三千段に息切らし
あと一息 ようよ目途のついてきた
あと一息 ゴールテープが見えてきた
しぶしぶながら 義理で判押す保証人
しぶしぶながら 格下棋士に投げらした
しぶしぶながら 貸したはよいが炊き割られ
しぶしぶながら へそくり出あーち戻した
しぶしぶながら 酒がなかけんお茶飲ます
しぶしぶながら 上司のゴルフ付き合わず

宮園 岩本よろこ
惣領 阪口 基明
広崎 松原まゆみ
寺迫 吉村 丸正
惣領 小森英美子
木山 増岡 酔粹
安永 井藤 吉郎
惣領 新居 露子
宮園 永瀬 美波
寺迫 吉村 丸正

狂句次号の課題 「もうぼつぼつ」「間に合わん」

投稿は役場広報係まで。

投稿締切日は毎月15日です(当日必着)。

※数種に投稿される場合は、別にお送りください。